

(Lonely Night Gathering)

やめし夜の句会報 第2153号 (2025.12.21-2025.12.28)

参加者: クイズケ、しまねいくん、藤岡あや、栗井ゆずる、三明十種、海月漂、
美蟲角 (びちゅうかく)、白水ま衣、笛地静恵、西脇祥貴、
Nidstrachterchen' 都まなつ、鈴木正巳、石原とつき、モロシコひろみ、
あづみのマルコ、西沢葉火、眞白(ましろ)とこします。汐田大輝、
大山 晶子、薄明かり、夜ボエム寄る、砂のよつな、岡村知昭、塩
の司厨長、蔭一郎、水の眠り、青海波、空野つみき、銀星星郎、しろ
ひめ、天然石アクセサリーkiki's、雷(らい)、季山詩音、何となく短
歌、よしひこ、安藤 蜜豆、山田真佐明、砂原妙々、宮坂愛哲、ひ
しゆか、流離するおかん時々オクラちゃん桃瀬 霧雨魔理沙、溺れる
水草、雨声、まじけい、sakuraisi、石川聰、松本清展、不思議な話の
アイソ、わたなべじゅんこ、麦わらひ、SunSaito 月波寺生 (五四名)

◆川柳・俳句

文字化けをうちそうに化けさせるサロメ クイズケ
ツチノコとじつはとむだち 都まなつ

手のひらをえらぶ氷よよく眠れ 都まなつ

家出して歳時記になる 都まなつ

クリスマスたくさんんの肉焼かれゆく 都まなつ

罰として食べている岩 都まなつ

折りたたみ傘は思春期 都まなつ

くちびるに触れる手前のショークリーム 汐田大輝

じわりじわりと在家の蛇にくるまるる 汐田大輝

水飴が事切れるとき見せた思慕 汐田大輝

脆弱なトートバッグに替えて吉 汐田大輝

チンアナゴさえ都當大江戸線に乗る 汐田大輝

水庄の弱き冬至のシャワー浴ぶ 蔭一郎
兎に角をサイドスローで投げてみる 蔭一郎
とはいえを追い越してゆく消防車 蔭一郎
セバスチャン年末年始がだいきらい 蔭一郎
主婦の顔大根スパッと切る朝餉 真白
ペリー・ローダン完食す Nichtraucherchen
街路樹の枝を疑う町に着く 雷
約束を見てきたような寂しさだ 雷
「平成」の文字と並んだ顔を見る 雷
目のうらが目のまえになり珈琲飲む 雷
結露するオルガン奏者 白水ま衣
齧ると苦い二人称 白水ま衣
コンビニの中に改造された雨 空野つみき
満潮のコインロッカーから琥珀 空野つみき
カナリアになりたくなくて歯を磨く 岡村知昭
手首の溝を濯ぐ中島みゆき 西脇祥貴
初雪やみかんを剥いている時の音 休職さん
手札揃わす仔猫のそつぽ アリタ別館
背骨抜くと沈みゆく商店街 アイン
山茶花や明日は見えます大丈夫 真白
揚羽蝶産まれよ二元論ひらけよ pes
うるさいと猫が鳴いてもマダムの手 山田真佐明
指先の狐火腹の中で燃ゆ 片羽雲雀
おいでおいでと穴埋める 石原とつき

*
かくれんぼ終わり煤逃げもう終わり しまねこくん
象鼻のヅツ切りとある骨の盛 三明十種
さみしきが私を殺す 海月漂
時雨来て一つ減りゆく物語り 美蟲角
前のひとの黒いウンチ 笛地静恵
幽霊の正体は君か雪女郎 鈴木正巳

カフェも抹茶もどつちラテ 西沢葉火

女です赤赤咲きたい寒椿 真白

物を買うそれは自由の疑似体験 大山 晶子

3日になつたら買うケーキ 塩の司厨長

薄まつた青を足す日はさみしくて しろとも

牡蠣うや環境破壊とはなにか 季川詩音

もみあげにもみあぐちから山眠る よしひこー！

何をしても 病む。 安藤 薫豆

人の子の生命線に刺さる釘 宮坂変哲

小さき灯燃へよと祈る聖夜かな ひいらぎ

ひとつにはなれぬ聖夜に雨の音 霧雨魔理沙

水面には触れずに水を出でおいで 清展

ウラ窓全開全身フュ 石川聰

クリスマスイブイブは不眠の日 まどけい

3度目はぼくのマグマが許さない 清展

幽遠のコスプレイヤーの唇 アイン

そして氣化する虚偽告訴する少女 月波与生

*

◆ 短歌

ぼくたちは足があるから花には成れず 蜜蜂に頼らず愛に
彷徨う 藤岡あや

鼻歌にメランコリックが混じるからあの日の曲は検索でき
ず 水の眠り

*

ねえ話 聞いてるいつもなぜそもそも上の空なの何か気にな
る 栗井ゆづる

点（とも）りだす街の星座を見上げれば忘れたはずの 悔
いも煌めく モロツコひろみ

手袋の指先だけが春を待つ触れぬままで熱は移りぬ あ
づみのマルコ

街中のホリデー気分を吸い込むも平年並の冷たい孤独 薄
明かり

靴下は吊るされたまま雨に濡れ冷えたからだにうんざりし
てる 砂のような

夜が明ける全てを曖昧にする白で黒い冬を見つけられない

青海波

売れ残るケーキを過ぎて酒を買う逝ったサンタの体温の夜

銀星星郎

雪に佇む無言の杉に 祖父の姿重ねて 天然石アクセサリ
ー kiki's

かじかんだ指先包み温めるココアで疲れ癒やせよサンタ
何となく短歌

包装紙めいた光に包まれて行き場をなくした手が冷えてゆ
く 砂原妙々

とても大切だと思つていたものを手離したら なんだか楽
になつた 暖いクリスマスイブ 流離するおかな時々オク
ラちゃん桃瀬

天井に漏れる外灯 針の音 止まらぬ思考転がるからだ 溺
れる水草

◆詩・短文

作品はありません。

◆作品評から

26日になつたら買うケーキ

塩の司厨長

～やつぱり値引き狙いですね。最近は物価が上がっていますから。でも、値引きされても、「なんか少し高いな」と思うときがありますね。あと、売れ残っているのがキャラクター系だと、なんだか胸がキューとなつて買ってしまいます。（季川詩音）

セバスチャン年末年始がだいきらい 薮一郎
～ロシテナンマイヤーさんに叱られることが増えそうですね
もんね…（わたなべじゅん）

かじかんだ指先包み温めるココアで疲れ癒やせよサンタ
何となく短歌

～優しいですね。きっと疲れてますよ。わざわざ遠いところから来て配つてるんですから。そして、全国のお父さん、お母さん、おつと失礼！とにかく癒されてほしいですね。（季川詩音）

何をしても、病む。 安藤 薫豆

～こんな夜は独り身ロンリーが余計な拍車をかけて来る
ので、病める宵です。christmas 関係無く病める時も生か
されてしまった側で、生きていますが（笑）（麦ちひろ）

ひみつばかりのアツコちゃん Nichtraudherchen

～いいね。こういうの大好きです。〈幸せは歩いてこ
ないので困る 北野岸柳〉という酔っ払つて書いたような
句がありますが川柳の面白さはこういう句から始まるので
はないかと思います。（月波与生）

段違い平行棒に干した鮭 薮一郎

～自分が現代川柳を書き始めた頃は、このような構文の句
が多かった。最近のネット川柳ではあまり見なくなつたの

で廃れていくのかな、と思つていたところの蔭一郎句。

今もリアル句会では受けます。（月波与生）

今年の一字に畠を選ぶ クイスク

（今年の一字に「畠」を選ぶ人は少ないと思うがこの句では選んだ。その違和感が面白さを誘う。「に」をカットして77の形でいいのでは。（月波与生）

マダムとの会話のツボが滝になる 山田真佐明

（「滝になる」の唐突感を「会話のツボ」でうまく距離を詰めている。（読み手は滝壺なる言葉を連想し唐突感が相殺される）（月波与生）

鉄塔になつた少女のくらげ狩り 空野つみき

（「くらげ狩り」が面白い。検索してもでてこないので作者の創作熟語だろうか。こういう言葉の生成が出来るのは強いよ。多作なのも○。（月波与生）

人の子の生命線に刺さる釘 宮坂麥哲

（破傷風気をつけて下さい（ShunSaito）